

# 環境経営レポート



## 株式会社東京オフ印刷

対象期間：2019年4月～2020年3月

発行日：2020年6月1日

## 1. 組織の概要

- 事業所名及び代表者氏名

株式会社東京オフ印刷  
代表社員 石原 寛祐

- 所在地

本社工場	東京都墨田区堤通1-10-21
出荷場	東京都墨田区堤通1-12-2
亀戸紙工センター	東京都江東区亀戸8-14-9 (2018年5月 新設)

但し、アッセンブリ工場は機能変更に伴い、2018年5月に出荷場に名称変更

- 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 業務部統括リーダー 兼 工場長代行  
：中川 裕一 TEL：03-6657-5903  
FAX：03-6657-5904  
Eメール：[nakagawa@tokyo-off.co.jp](mailto:nakagawa@tokyo-off.co.jp)

担当者 経理部 ：西 夕貴 TEL：03-6657-5903  
FAX：03-6657-5904  
Eメール：[saito@tokyo-off.co.jp](mailto:saito@tokyo-off.co.jp)

- 事業活動の内容  
特殊印刷及び特殊加工

- 事業の規模

主要製品の売上高	6.4億円/2019年度
従業員数	39名
内訳	本社 29名
	亀戸紙工センター 10名

## 2. 対象範囲

- 登録組織・活動

当社は全組織・全活動を対象としています。

### 3. 環境経営方針

#### 株式会社東京オフ印刷 環境経営方針

##### <企業理念>

株式会社東京オフ印刷は我々の生活の場である地球環境の保全が最重要課題と認識し、あらゆる分野で資源を大切にし、また環境に配慮した取り組み、実行、改善を行います。

##### <行動指針>

1. 環境関連法規制を守ります
2. 事業活動で排出される二酸化炭素、廃棄物、排水の量を把握し、削減に努めます。
3. 事業の主原料である紙資源の無駄の削減と、再利用に努めます。
4. 環境に配慮した原材料を使用するよう努めます。
5. この環境方針を全従業員に周知します。

2008年04月01日  
株式会社東京オフ印刷  
代表社員 石原寛祐

## 4. 実施体制

### 役割、責任及び権限一覧

作成日 2012年8月8日  
 更新日 2013年3月1日  
 更新日 2014年3月1日  
 更新日 2015年4月1日  
 更新日 2017年4月10日  
 更新日 2018年2月1日  
 更新日 2018年6月1日  
 更新日 2019年4月2日

作成	承認
中川裕一	石原寛祐

事業所	役割	責任、権限
本社 及び 出荷場	代表者 石原寛祐	環境方針の改定 環境管理責任者、環境管理推進室長の任命 環境経営システムの全体取組状況の評価、見直し、指示 環境目標及び環境活動計画、環境レポートの承認 経営における課題とチャンスの明確化
	環境管理責任者 中川裕一	環境経営システムの是正、予防処置 各部署の責任者の任命 環境目標及び環境活動計画、教育訓練計画の立案 定例会議で前月の集計数値を報告 環境関連法規の遵守状況確認 環境レポート作成
	環境管理推進室長 西 夕貴	環境経営システムの是正、予防処置 環境目標及び環境活動計画、教育訓練計画の立案 外部苦情要望受付窓口
	品質管理部E A執行責任者 須藤悦夫	自部門の環境活動計画の発表 前月の用紙回収量の集計 前月の印刷用紙の購入量の集計
	営業部E A実行責任者 西 夕貴	自部門の環境活動計画の発表 緊急時の行動フローを部署従業員に周知
	業務部E A実行責任者 澤田宏子	自部門の環境活動計画の発表 前月の電気使用量を集計 緊急時の行動フローを部署従業員に周知
	DTP部E A実行責任者 山本彩夏	自部門の環境活動計画の発表 前月のCTP購入量、産業廃棄物量を集計 緊急時の行動フローを部署従業員に周知
	印刷部E A実行責任者 今井隆雄	自部門の環境活動計画の発表 前月のインキ、溶剤の購入量の集計 緊急時の行動フローを部署従業員に周知
	経理部E A実行責任者 山田良子・西夕貴	自部門の環境活動計画の発表 前月の燃料使用量、グリーン購入数を集計 緊急時の行動フローを部署従業員に周知
ネット事業部E A実行責任者 中澤佳織	自部門の環境活動計画の発表 ホームページを通してのエコアクション活動のPR	
亀戸紙工 センター	加工部E A実行責任者 飯山 出	自部門の環境活動計画の発表 緊急時の行動フローを部署従業員に周知
	アッセンブリ部E A実行責任者 伊勢島 洋子	自部門の環境活動計画の発表 緊急時の行動フローを部署従業員に周知

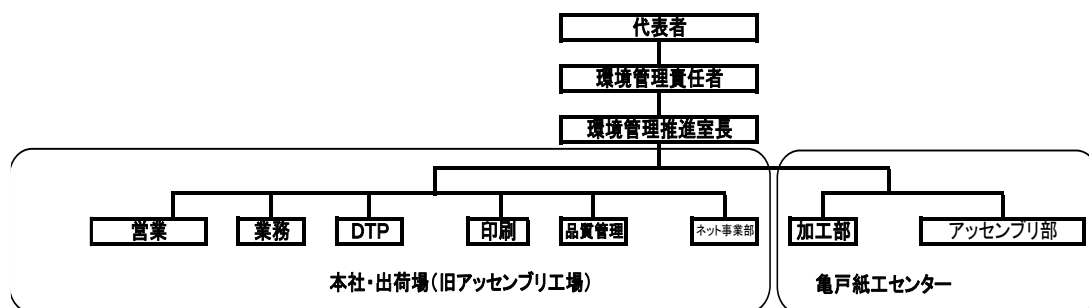
### 東京オフ印刷組織図

(2018年度 亀戸紙工センター 新設に伴う変更)

2010/4/5

2014/9/18更新

2018/6/1更新



## 5. 環境経営目標・環境経営目標の実績

	2018年度 基準年度	2019年度 目標	2019年度 実績	目標達成 状況	2020年度 目標	2021年度 目標
1. CO2 合計 (Kg-CO2) (本社+出荷場)	122325	121102 99%	134310 109.8%	×	119878 98%	118655 97%
・電気(Kg-CO2) 本社	120734	119527 99%	132606 109.8%	×	118319 98%	117112 97%
・電気(Kg-CO2) 出荷場	1591	1575	1704 107.1%	×	1559 98%	1543 97%
・電気(Kg-CO2) 亀戸紙工センター	17513	17338	— ※2	— ※2	※2	※2
・ガソリン / 軽油 (Kg-CO2)	23540	23305 99%	22171 94%	○	23069 98%	22834 97%
2. 廃棄物合計 (t)	10.95	10.24 100%	14.97 146%	×	10.23 100%	10.23 100%
・一 廃 (t)	0.50	0.49 98%	0.40 80%	×	0.48 97%	0.48 97%
・産 廃(廃プラ) (t)	10.45	9.75 100%	14.57 149%	×	9.75 100%	9.75 100%
3. 水使用量削 (m <sup>3</sup> )	478	478 100%	553 116%	×	478 100%	478 100%
4. 化学物質の適正管 理(kg)	227	278 100%	205 90%	○	227 100%	227 100%
6. 特色色合わせの改善に よる廃インキの削減(Kg)	572	561 98%	667 117%	×	561 98%	561 98%
7. 排出用紙のリサイク ル化	93.9%	94.8% 1.0%増	91.2% 2.8%減	×	94.8% 1.0%増	94.8% 1.0%像

※1 上表各項目は、本社工場・出荷場・亀戸紙工センターの合計値を示す。

※2 但し今期9月より、亀戸紙工センターの電力の数値が入手できなくなったことから、評価から外す。CO2の合計値は本社工場・出荷場の合計値を示す。

※基準年度は、2014年4月～2015年3月。但し2018年5月に亀戸紙工センターとして新規事業所を稼働させたため、2018年を新たな基準年として活動していく。

※CO2 排出係数は、2017年実績 TEPCO 調整後排出係数 0.474kg-co2/kwh を使用した。

○目標達成 △目標未達成但し基準年比減 ×目標未達成

## 6. 環境経営計画・取組結果と評価、次年度の取組内容

環境活動計画	取組結果と評価、	次年度の取組内容
<b>1. 二酸化炭素排出量削減（電気）</b> ①運転時間外のUVランプ消灯 ②エアコンフィルターの定期清掃 ③作業箇所単位での照明オフ ④CTP自現機の時間帯稼働 ⑤使用していない設備の待機電源カット ⑥新規エアコンの設置	印刷機新台のA全機の受注が安定し出した。3台の印刷機稼働となり、かつロングランの仕事も増加傾向にあり、電力使用量が増えたものと思われる。また、猛暑のため、エアコンの使用もハードだった。機密性の低い1Fフロアに印刷機を設置したので、加湿器の使用がヘビーになっているのも、電力使用量を増やしている要因と思われる。	エアコン、加湿器については、使用する必要があるかどうかを温湿度計の表示を確認しながら判断すること。
<b>1. 二酸化炭素排出量削減（ガソリン・軽油）</b> ①エコドライブの徹底 ②効率的なルートで配送 ③低燃費車両の導入・切替	ガソリンの使用量が下がって、良い結果につながった。	活動を継続する。
<b>2. 廃棄物排出量削減</b> ①アップリ部余剰品廃棄時の分別の徹底 ②サンプル品廃棄時の分別徹底 ③缶バッジの過剰生産を抑える。（産廃からリサイクル品へ） ④コピー用紙の裏紙利用	基準年の1.5倍もの廃プラが排出されている。単月で見ても通年増加していることから、仕事の内容の変化に伴って、廃プラが増加しているものと思われる。タック紙、フィルム原反の受注増。	来期も増加傾向が予測されるので、ヤレ紙以外で廃プラを出さないよう、分別を徹底すること。
<b>3. 総排水量の削減</b>	本社での水道水の使用量増が目立つ。5号機の水回りのトラブルが原因。	メンテナンスも含めて、水使用に注意を払うこと。
<b>4. 化学物質適正管理</b> ①使用化学物質の統合により使用品目を減らし、総保管量を削減する ②ローラー洗浄剤の使用量を意識的に抑える	使用量が抑えられてアーセンといて、いい結果が出た。	活動を継続する。
<b>6. 特色色合わせの改善による廃インキの削減</b> ①特練インキ10g単位での製造 ②特練インキのデータ精度を上げ、不良インキの削減	上半期の廃インキ量が多かった。A全機では、ツボに入れるインキ量も多いため、廃インキ量も増加する傾向にある。受注品の機種振り分けの時、留意して、カラー物を中心にした方が、廃棄量を抑えることができる。	調色機の故障も原因の一つと考えられるので、メンテナンスも含めて、改めて削減に取り組むこと。

## 7. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は以下の通りで、4月1日遵守評価の結果、これらへの違反はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

適用環境関連法規等	適用される事項 (事業活動、施設、物質等)	遵守状況の確認・評価
廃棄物処理法	廃プラ等の産廃	委託契約等
騒音・振動規制法	印刷機 4 台・断裁機 1 台 筋入機 1 台・角丸機 2 台	届出確認 OK
東京都火災予防条例	洗浄剤	在庫量を危険物指定数量の 1/5 以下に抑えられている OK
有機溶剤中毒予防規則	印刷溶剤・洗浄剤	有機溶剤作業主任者の選定、 及び講習の受講ができて いる
PRTR法	製版関連薬品・印刷溶剤・ 洗浄剤	SDSの入手・保管 OK
東京都環境確保条例	工場認可	届け出・標識等確認

## 8. 代表者による全体評価と見直しの結果

昨年度導入した印刷機の新台の稼働が安定し出してきた。A判全判機のためロットの大きい受注に対応するため、ロングランの稼働が多く、ほかの機種と比べて稼働率が高いため、電力使用量の増加につながっているものと思われる。また、印刷損紙についても紙のサイズが大きいため、廃棄重量の増加につながっている。営業活動の効率化により、ガソリン使用量が抑えられたのは好結果につながった。エアコン、加湿器を使用するかしないかについて、より厳しい目で判断し電力使用を抑え、CO2排出量の削減に努めること。

タック紙を使用する受注が増加傾向にあるが、今期よりタック紙の損紙回収が、廃プラ扱いとなった。このことが廃プラ排出量の増加につながっており、ひいては排出用紙のリサイクル率の低下を招いている。ベンチマークの取り直しを検討する必要がある。従業員の廃棄物の分別意識は高く特に一般廃棄物については活動の効果が見られる。

今期は設備のトラブルが招く使用量、排出量の増加が目立った。印刷機の水回りトラブルのため水道水の使用量が増え、調色機のトラブルにより廃インキ量が増加した。環境面からも、メンテナンスの重要性を示唆しており、日々のメンテナンスを怠らないようにすること。

(以上)